

授業 科目名	【G】	—	区分	開講年次	【G】—	単位数	【G】—	
	【H】	法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ L	選択必修		【H】2		【H】2+2	
	【I】	法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ L			【I】2		【I】2+2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	メディア、インターネットに関する法を学ぶ				担当者	渡邊 美樹		
授業概要	【概要】	情報伝達技術の多様化は、複雑な権利侵害を引き起こしています。SNSが広く普及、発達した情報社会では、被害の拡大が容易になされ、その態様も様々となりました。この授業では、教材を輪読したうえでディスカッションを行ない、テレビやインターネットに関する法について理解し知識を深めます。						
	【到達目標】	法的視点を養い、変容し続ける情報環境に対応できる力を身につけることができる。						
履修条件	特になし							
アクティブ ラーニング の方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	特になし							
教科書	開講時、履修者と相談の上、指定する(参考書としては、『マス・メディアの表現の自由』松井茂記(2008・日本評論社)などを予定。							
参考書	適宜指示する							
評価方法	発表60%, 授業への参加態度40%							
フィードバック 方法	質問については回答を、コメントシートについては解説を行います。							
評価基準	授業に出席するのみならず積極的に参加し、課題を達成するとともに、学習した内容をよく理解した者はその程度に応じて「S」または「A」、不足がある者はその程度により「B」または「C」とし、参加度または達成度が著しく低い者はその程度に応じて「D」または「E」とします。なお、所定の出席要件を満たさない場合などは「F」とします。							

授 業 科目名	【 G 】	—	区 分	開講年次	【 G 】—	単位数	【 G 】—
	【 H 】	法学政治学演習 I・II L	選 択 必 修		【 H 】2		【 H 】2+2
	【 I 】	法学政治学演習 I・II L			【 I 】2		【 I 】2+2
授業内容	<p>授業では、まず、情報社会を考えるにあたって重要となる、テレビやインターネットに関する法について論じられた教材から、重要なテーマをピックアップし輪読することにより、今日的状况を把握する。また、放送倫理・番組向上機構(BPO)の資料などに基づき、テレビ番組における様々な法的問題について全員でディスカッションし、課題解決について議論するとともに、多角的視座を身につける。※初回はイントロダクションにて、ディスカッションの方法、授業を受けるにあたっての注意事項など</p>						
予習内容							
復習内容	資料の再読、要点の再考など ※毎回90分程度の復習が目安となる						
その他	資料の再読、要点の再考など ※毎回90分程度の復習が目安となる ※H・I加：【 Iは選択必修(A)・IIは選択必修(B)】						